

福井県立大学長寿命化計画
(概要版)

公立大学法人 福井県立大学

目 次

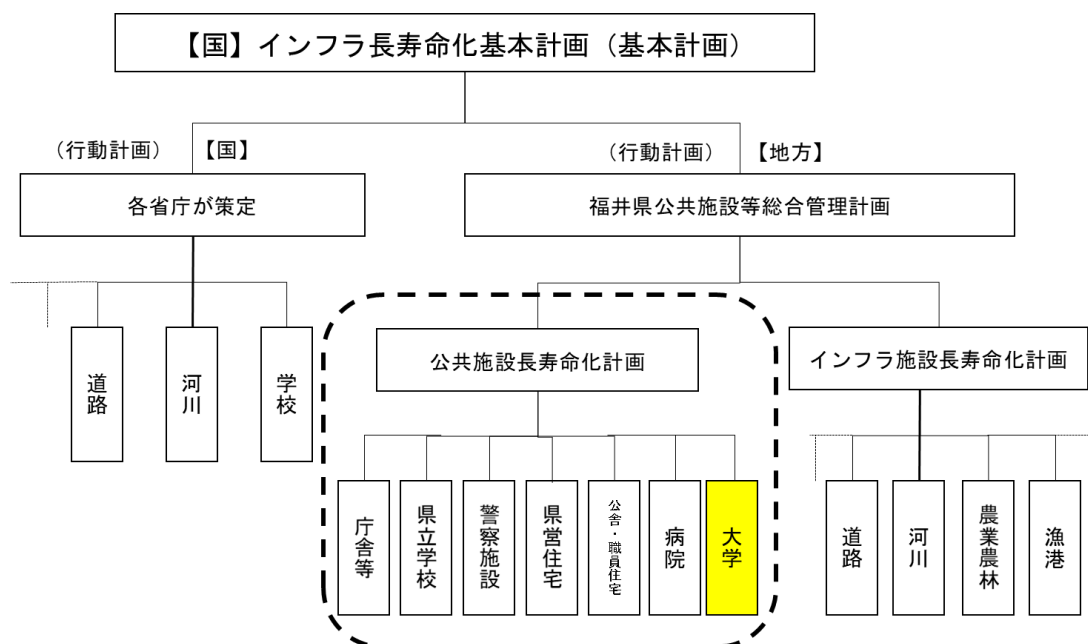
I	計画の位置付け等	1
1	策定の目的.....	1
2	対象施設	1
3	計画期間	1
II	対策の方針	2
1	基本的な考え方	2
2	対策の優先順位の考え方	2
III	個別施設ごとの状況と対策内容等	3
1	施設の状況.....	3

I 計画の位置付け等

1 策定の目的

この計画は、国が平成25年度に策定した「インフラ長寿命化基本計画」および県が平成27年度に策定した「福井県公共施設等総合管理計画」に基づき、類型ごとの具体の対応方針を定める長寿命化計画（個別施設計画）である。

予防保全的な維持管理や計画的な修繕等を効果的に実施し、利用者の安全・安心を確保するとともに、施設の長寿命化を推進し、ライフサイクルコストの縮減や費用の平準化を図る。



2 対象施設

福井県立大学が保有する永平寺、あわら、小浜、かつみの4つのキャンパスおよび教職員住宅の施設を対象とする。

3 計画期間

本計画は、福井県公共施設等総合管理計画の推進にあたり、類型ごとの具体の対応方針を定めるものであることから、計画期間の終期は、現在の第3期中期計画（令和元年度～令和6年度）期間である令和6年度とする。

なお、計画期間内であっても、各対象施設の状態は、経年劣化等によって時々刻々と変化することから、本計画は適宜見直すものとする。

Ⅱ 対策の方針

1 基本的な考え方

施設の老朽化が進む中、本学に求められる機能を確保するために、定期的な巡回を行い、施設・設備の状況把握や劣化進行等を確認するとともに、専門業者による点検・診断を行いその結果を踏まえた計画の策定や日常的な修繕・大規模な改修等の対策を実施している。

これらの取組みを継続すると共に、省エネルギーの考え等を取入れたトータルコストの縮減と平準化など効果的・効率的に施設の長寿命化を図り、施設の健全性および安全性の確保に努めていく。

また、施設を改修する際には、大学施設を誰もが安全に安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた施設整備に努める。

2 対策の優先順位の考え方

大学の施設において、それぞれの優先度を考慮しながら、施設を構成する 部 位・設備の特性に応じた計画的保全を実施することとする。

優先する修繕 (予防保全の観点から特に優先して実施)	通常の修繕 (劣化状況を勘案しながら計画的に実施)
<ul style="list-style-type: none">劣化により躯体への直接の影響が生じる部位・設備 計画的な保全を行わず、損傷してから修理を行った場合、基礎・柱・梁等の躯体への劣化・損傷を招き、建物自体の寿命を縮めることになりかねない部位・設備（屋根、外壁等）については、早期段階で計画的に修繕を行うことで、トータルコストの縮減を図る。劣化により人命への影響が考えられる部位・設備 利用不能となってから修理を行った場合医療機器や医療サービスへの影響が発生し、利用者の人体に影響を与えかねない部位・設備（電気設備、空調等）については、定期点検結果をもとにした修繕を確実に実施する。	<ul style="list-style-type: none">劣化による躯体や安全性への影響が小さな部位・設備 損傷・故障等した場合でも、躯体や安全性、施設機能への影響が少ない部位、設備（施設照明、内部建具等）

Ⅲ 個別施設の対策内容等

1 施設の状況

- | | | |
|--------------|------|--------|
| (1) 永平寺キャンパス | 建築年度 | 平成3年度 |
| (2) 小浜キャンパス | 建築年度 | 平成4年度 |
| (3) あわらキャンパス | 建築年度 | 平成4年度 |
| (4) かつみキャンパス | 建築年度 | 平成14年度 |
| (5) 教職員住宅 | 建築年度 | 平成3年度 |

①施設（建築物）の老朽化

老朽化対策は、効果的・効率的利用に配慮し、省エネルギー対策（断熱）等を含めた改修計画を作成する必要がある。

②電気設備

電気設備は、特に電線等の配線資材は、法定耐用年数を超えて使用している事が多く、建物改修等と合わせて省エネルギー（LED）に配慮した改修・更新計画が必要である。

③空調設備

空調設備は、法定耐用年数を超えて使用している事が多く、故障の増加も見られる。今後障時や経過年数を考慮し、環境対策（フロンガス）や省エネルギーに配慮した更新計画が必要である。

④ガス設備

ガス設備の配管（屋内外）は、法定耐用年数を超えて使用している事が多く、腐食対策および耐震化に配慮した更新計画が必要である。

⑤給水設備

給水設備は、法定耐用年数を超えて使用している事が多く、経過年数を考慮し、省エネルギー（ポンプ用モータ）や節水機能に配慮した更新計画が必要である。

⑥排水設備

排水設備は、法定耐用年数を超えて使用している事が多く、腐食対策および耐震化に配慮した更新計画が必要である。